

アクティブケアーあいの樹(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 21 年 1 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870300280
法人名	医療法人 相木病院
事業所名	アクティブケアーあいの樹
所在地	福井県越前市小松1丁目5-4 (電話) 0778-21-2110

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】 (20 年 12 月 6 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人、非常勤 5 人、常勤換算 8.2 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	460 円
	夕食	460 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要 (12 月 18 日 現在)

利用者数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	7	要介護2	7
要介護3	2	要介護4	0
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 85.8 歳	最低 72 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	相木病院・山本歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

越前市の中心市街地にある母体病院に程近く、同法人が有する敷地の一角に当ホームはある。周囲に民家が少なく地域との接点は少ないが、入居者と職員が毎週水曜日にホーム近辺のごみ拾いをしたり、地域の行事に参加したりと努力をしている。
 設立当初からのその人らしい活動的な生活の支援への取り組みに加え、地域で生きる大切さと住み慣れた環境で終末期まで支えるというグループホームに求められる役割が大きくなる中で、前向きな取り組みが評価できる。特に法人母体である病院との連携で終末期の医療面、看護面での支援が得られており、看取りに取り組んだ実績もあり、入居者や家族の安心につながっている。
 管理者、職員共に日常の入居者の状態に細やかな気配りを行っており、車いす使用の入居者の足もとの冷えにも膝かけだけではなくレッグウォーマーを取り入れたり、片麻痺の方へは柔らかい毛皮で圧迫傷を防ぐなど個別の対応を行って、ホームでの快適で安全な生活を支援している。さらに、災害時の簡易トイレも準備されており、緊急時には母体法人からの支援体制の取り決めもなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘のあったボランティア受け入れ時の問題点については、市の担当者へ申し入れを行い改善につなげている。また、運営推進会議への家族の参加を促す取り組みとして、毎年家族の中で担当を決めてもらったり、日程も家族の出欠を優先して調整を行ったりするなどの改善がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者、計画作成者が職員と共に評価して作成している。管理者、職員共に自己評価を日頃の介護についての見直しや気づきを得る機会と捉えられていることがヒアリングから確認できた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は市職員、老人会会長、民生委員、利用者家族をメンバーに2か月ごとに開催されている。会議で家族から職員の名前が分からないという意見があり、職員の名前が分かるようパネルを作成して掲示するなど、会議での意見や提案に迅速に対応してサービスの向上に取り組んでいる様子が見えたと。また、会議の内容は後日家族にホームの近況報告と共に郵送されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	意見箱がホームの各玄関や法人の受付に設置されているが意見があまり出されることがないため、管理者は外部評価時に行う家族アンケートの結果を真摯に受け止めて、指摘された点の解決に取り組んでいる。今後、ホーム便りの内容を見直し、家族からの意見を引き出すきっかけとなるように活用していきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内からのお知らせで得た情報をもとに運動会や文化祭、音楽会等に入居者の体調を考慮して参加している。また、市の要請でボランティアの研修を受け入れており、地域との交流とホームの機能の還元を図っている。災害時には地域の協力を得られる連絡体制も構築されている。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活するための支援について、分かりやすい言葉で6項目にまとめ、職員の控え室に掲示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記6項目の中から、月ごとに重点項目を決め、リビングの月間計画が記入されたホワイトボードに掲示して、取り組みの状況をチェック表で確認している。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内からのお知らせで文化祭や運動会、音楽会等の情報を得て参加している。また、毎週水曜日に入居者と職員がホーム近辺のごみ拾いをするなど地域に溶け込んだ活動をしている。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で指摘された課題の改善に前向きに取り組んでおり、今回の自己評価にあっても、管理者と各階の責任者が一般職員の意見を取り入れて作成している。職員は自分たちでは気づかない部分を知ることができ、介護の見直しに繋がる機会と捉えていることがヒヤリングから確認できた。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員、老人会会長、民生委員、利用者家族をメンバーに2か月ごとに開催されている。会議で家族から職員の名前が分からないという意見があり、職員の顔と名前が分かるようパネルを作成して掲示するなど、会議での意見や提案に迅速に対応してサービスの向上に取り組んでいる様子がうかがえた。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入ってもらおうほか、市担当課と相談等で連絡を取っている。市の要請でボランティアの研修を受け入れており、その際の留意点や入居者に配慮した実習時間の設定等について細かく申し入れをしている。		
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームでの様子を分かりやすく伝えるために、写真を掲載した「あいの樹便り」を作成して、運営推進会議の内容等も含めて報告している。日常的に面会や電話でも家族に報告・連絡を行っている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族が参加する行事を計画して、あわせて家族会を開いている。また、運営推進会議の参加については、毎年家族の中で担当を決め、その方の出席できる日を優先して開催日を決めている。意見箱はあるが、あまり活用されていないため、外部評価時に行う家族アンケートの結果を真摯に受け止め改善に努めている。		今後、ホームの便りの内容を見直して、家族からの意見を引き出すきっかけとなるように活用していきたいと考えており、家族が望むケアの工夫や家族の意見を踏まえて改善した事例等を積極的に公表していく取り組みが期待される。
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	行事や外出は1、2階合同で行っており、職員の異動についてもユニット間のみで入居者への影響に配慮されている。新規に採用された職員についても入居者との馴染みの関係ができるまでは他の職員と行動を共にすることになっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部での毎月の研修に参加する以外に、年2回の外部での研修参加も義務づけており、職員は費用負担もなく、業務として参加できるように配慮されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、計画作成担当者は、県の連絡協議会での交流を持っており、サービスの向上に努めているが、一般職員は交流の機会が持たれていない。		一般職員を対象とした相互交流は、前回評価からの継続課題であり、同業者との積極的な交流で情報の交換や介護の質、意欲の向上につながる取り組みを期待したい。
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんげに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に当たっては、本人に説明して納得してもらっており、一日体験利用から入居につなげるようにしている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながから喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は昔からの生活の知恵や大切にすべき教訓等を教わり、入居者の得意な裁縫や編み物等を習いながら共に支えあう関係であることが職員のヒヤリングから確認できた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の訴えがあれば記録し、職員全員で話し合って要望に沿えるよう支援しており、言葉で伝えられない人へは、日々の生活の中で表情や様子を見ながら汲み取って、個別の支援に反映している。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム独自のアセスメントシートで状況を把握し、職員は入居者ごとの担当制をとって本人や家族の意向に沿った介護計画を立て、日々の記録を基にモニタリングを行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議の後にケアカンファレンスを行っている。見直しに当たっては日々の業務記録を基にモニタリングした結果から状態に応じた追加、変更等の対応を行っている。必要時には随時見直しを行い、家族への連絡も電話で行われている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	まだ実績はないが、ショートステイでも受け入れができる体制となっている。また、認知症対応型デイサービスが併設されたため、行事での行き来やホームの行事等で外出する時にデイサービスの送迎車を利用するなどの連携もなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医の受診継続がなされている。かかりつけ医や専門医への受診は原則家族に同行をお願いして、初診時や重要な情報の提供は文書で行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針があり、入所時や運営推進会議でも利用者や家族に説明している。ある一定の年齢を超える高齢の入居者には介護認定の更新時に終末期に向けた意向を聞き、これまでに看取りを行った実績もある。今後、終末期介護の研修に職員を派遣して、職員教育と支援体制の充実に取り組む予定である。		
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけは入居者に寄り添い、一人ひとりの状態に合わせて適切に行っている。ホーム便りの写真の掲載についても家族や本人の了解を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして大まかな予定は立てられているが、リビングで編み物や縫物等の自分の好きなことをしたり、居間で写経したりするなどの一人ひとりに合わせた支援がなされている。		
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1、2階共に入居者ができる範囲で、米をといだり野菜を切ったりと食事の準備を手伝っており、後片付けも職員と利用者が自然な形で協力しながら取り組んでいる。ホームの畑で収穫した物も食材にしたり、焼き芋会を行うなどして、食の楽しみにつなげている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人週3回の入浴を基本に、希望があればその都度入浴もできる。入浴を拒む人へは気の合った入居者に入浴を誘ってもらい、入るきっかけを作るなど柔軟な支援をしている。		
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年2回は家族と共に楽しめる行事を計画おり、直近で行ったおはぎ作り等では、特に入居者が力を発揮できるように取り組んでいる。また、ボランティアの先生に習う絵手紙も、作品を外で展示する機会を設けて、よりやりがいや楽しみが増す支援に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良く希望があれば日常的に散歩をしている。入居者一人での散歩もホーム内から窓越しに見守りながら支援しており、帰宅願望の強い方には自宅まで車で出掛けたりもしている。季節の行事での外出の他、外食の希望等も予定に組み入れて外出の機会としている。		
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者のいる2階では、職員の手薄な時間に施錠することもあるが、基本的に1、2階共に夜間以外は自由な出入りができるようになっている。訪問調査日も家族と2階から下りて行く入居者の姿も見られ、職員も自然な見守りを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施しており、家族や区長や自警団との緊急連絡体制ができています。さらに、災害時の簡易トイレも準備されており、緊急時には母体法人からの支援体制の取り決めもなされています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一回、法人の管理栄養士にホームでの食事を試食してもらい献立の評価とアドバイスをもらっている。食事量が少ない入居者には、医師の指導の下に栄養剤や栄養補給食品等も取り入れている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、食卓テーブルの他に畳のコーナーもあり、各階の天井や壁面に折り紙や張り絵で作られた季節感のある作品が飾られていて、快適で和みのある共有空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は和風で洗面所が完備されており、入居者が使い慣れた家具が持ち込まれている。また、絵手紙や張り絵、写経等の作品がさりげなく飾られていて、清潔で居心地よい空間となっている。		

アクティブケアーあいの樹(1F)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念がある		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月項目を決めて優先的に取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会推進会議の参加者に報告している		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣へ買い物に出かける 老人会の方々の行事に参加		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を払い、町内の活動に参加交流している		運動会、文化祭、音楽会に声が掛かり参加
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣やあいの樹周囲のごみ拾いをしている		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族のアンケートからの評価を具体的に引き上げ、職員の改善に努める		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内行事の連絡を受けたり、災害時お互いの協力などを得る事ができる		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長寿福祉課に色々と相談し向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修がある時に参加		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がお互いに言葉使いに注意し、相手のペースで行っている	○	入所者様の見守りはもちろん、職員間でも勤務行動の把握をしている
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族の思いを聞き、今後の方針等も話し合っている	○	長期間の入院は退居手続きを取りその間はショート利用を受け入れ退院後は又入所できるようにしたい
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の訴えを聞き漏らさないよう記録し対応支援相談員の受け入れをしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、おたよりを出す 必要に応じて面会時や電話で説明する		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や担当者会議に意見を聞く		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見があれば運営者に報告し解決している		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員に協力を得て調整		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1Fと2Fへの異動はあるが、他部署への異動は少ない		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修用紙を回覧し、全員に交替で行くようにしている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協力で研修に行き来をする		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生を含む定期的な食事会や有給などを取りやすくしている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修に出したり資格対象者には支援する		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期に聞き取る用紙にて訴えを聞く	○	利用者の思いを優先する
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に家族と話し合い、可能な事・不可能な事を説明する	○	他科受診の件、体調不良時、退居の事などの説明
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入所の希望が多く入所場所を探している	○	他のグループホームの申し込みなど施設の説明をする
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験として1日利用 食事代は実費		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	献立や食べたい物、四季を感じる所に出かける		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会に行事を行う	○	おはぎ作りなどに参加していただく
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族へのお便りを通して行事への参加を促したり立ち寄りやすい雰囲気を作っている	○	面会の回数を増やして頂く
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一緒に外出したり、気兼ねなく来てもらえるよう迎えている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う者同士の関係は良好であるが、合わない人もいる	○	テーブルの席を替えてたりしている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に入所しても、訪問したりして関係を持っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で訴えを記録し、困難なときは本人と話し合う		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで情報や本人・家族との日々の会話の中で知り得た情報を記録する		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人のプランや集団活動の中で変化があれば話し合っている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議の用紙に記録している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎に話し合い変更している		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員に入所者様の訴えを周知するようにしている		全員の参加での話し合いができないので最終的な見直しは職員会議とする
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の他科受診や併設の病院の活用と医師と看護師の対応がある		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議に参加を促し、協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な時は声を掛けたり内容の説明をしている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	適応者に対しては経過をみている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と家族と話し合う	○	協力病院にない眼科・歯科への希望が多く家人の協力を得たり職員が連れて行く事もある
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	すこやかシルバーHPの受診を勧めた		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携の看護師が来て支援している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院前には情報を得て、グループホームで対応できるか判断し受け入れている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>認定調査時、家族、ケアマネが集まって今後の方針を話し合う 職員へも連絡している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>今年1名の方看取りを行った</p>	○	<p>今後、看取りに関する職員の研修もして行きたい</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>日々の生活での情報や介護のやり方など細かく伝える</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人に合わせた生活が維持できるよう気をはっている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>楽しみな行事などは前もって説明し、協力を得るよう話をする</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れの中で全員が集まる時や1人で過ごす時間も作っている</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>トイレの問題もありカットのみは来てもらい、パーマや顔そりは出向いている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>役割分担もあるが、全員が一緒にできるようにしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みもあるがケーキ屋や餅屋へ行き選んで買ってくる</p>	○	<p>昼食後ホームで話しをしている時は菓子やホームを出したりしている</p>

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	季節を考えながら、布パンツにパットを敷いたりしている時間を見て連れて行く		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応は決まっているが、訴え時は入れる		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居宅は自由に出入りができ、横になれる		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全員で作った作品やおやつなど出来上がったときは達成感がある		本人が好きな事をしている時は輝いておりこのまま支援していきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたくて欲しいものを買うようにしている	○	3名ほどが対象
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員で散歩する時はできるが、一人だけや毎日訴えるとできない日もある	○	入居し1～2ヶ月は帰宅要求があり、その人に合わせた外出をしている
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日曜日は人ごみがあり、平日は家族の参加が少ない		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が訴えたときは電話する 絵手紙を書いて出している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人友人には自由に出入りをして頂くよう声掛けしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重度化によりベット柵を必要とする		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りが出来る環境にしているが必要に応じて行う事もある越前市にSOSネットワークシステムがあり外に出歩く人は登録をする	○	対象者がいないので鍵をかけていない
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール内は台所、居間などが見渡せられ様子が確認できる	○	転倒、不穩などのリスクの高い人には特に注意している
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室の整理整頓をしている 歩行器の置き場所を決めて安全に気をつけている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを提出し話し合う プランに入れ統一している		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の連絡方法やマニュアルに沿って行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員にも日頃から伝えている 家族、近隣に連絡網がある スプリンクラーの設置をした		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険度が高い人には家族と話し合い介護用品を使う		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	発見者は日誌記録、申し送り時に話し合い協力HPに受診		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬、特殊な内容の説明はその都度説明 個人の薬のしおりで確認している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、食事の工夫、体操、歩行を毎日行っている		テレミンや下剤を使用することが多い
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアをしている 歯科受診は往診して治療を受ける		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補給剤を用意している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前の手洗い、ウエルパス使用 掃除にはハイターを使用		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の掃除は週間予定表に基づいて行っている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり、家庭的な雰囲気になっている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽が射したり、外の木々などが見えるところを好む 昼食後コーヒーなどを飲む		今年は四季を表わす展示をした
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり玄関にベンチを設置している		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していたタンスなどを持参し、好みの配置をしている		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇、窓などで調整している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが必要になっている 押し車や車椅子が増えた	○	トイレ2ヶ所に手すりをつけた あと2ヶ所も検討している
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分のやる気、能力を判断して自分の事は自分でするようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	収穫できる野菜、くだものを植えてある	○	花火、焼きもを楽しんだ
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・楽しみを共有できるように利用者の意見を聞いて行う(ドライブ・花見・ぼた餅作り・誕生会)
- ・近くによりあい(通所サービス)ができお互いに行事での行き来がある
- ・畑で(野菜・柿の木・いちご)など収穫できる

アクティブケアーあいの樹(2F)

自己評価票

 は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念がある		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月項目を決めて優先的に取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会推進会議の参加者に報告している		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣へ買い物に出かける 老人会の方々の行事に参加		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を払い、町内の活動に参加交流している		運動会、文化祭、音楽会に声が掛かり参加
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣やあいの樹周囲のごみ拾いをしている		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族のアンケートからの評価を具体的に uptake、職員の改善に努める		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内行事の連絡を受けたり、災害時お互いの協力などを得る事ができる		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長寿福祉課に色々と相談し向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修がある時に参加		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がお互いに言葉使いに注意し、相手のペースで行っている	○	入所者様の見守りはもちろん、職員間でも勤務行動の把握をしている
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族の思いを聞き、今後の方針等も話し合っている	○	長期間の入院は退居手続きを取りその間はショート利用を受け入れ退院後は又入所できるようにしたい
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の訴えを聞き漏らさないよう記録し対応支援相談員の受け入れをしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、おたよりを出す 必要に応じて面会時や電話で説明する		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や担当者会議に意見を聞く		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見があれば運営者に報告し解決している		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員に協力を得て調整		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1Fと2Fへの異動はあるが、他部署への異動は少ない		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修用紙を回覧し、全員に交替で行くようにしている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協力で研修に行き来をする		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生を含む定期的な食事会や有給などを取りやすくしている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修に出たり資格対象者には支援する		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期に聞き取る用紙にて訴えを聞く	○	利用者の思いを優先する
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に家族と話し合い、可能な事・不可能な事を説明する	○	他科受診の件、体調不良時、退居の事などの説明
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入所の希望が多く入所場所を探している	○	他のグループホームの申し込みなど施設の説明をする
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験として1日利用 食事代は実費		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	献立や食べたい物、四季を感じる所に出かける		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会に行事を行う	○	おはぎ作りなどに参加していただく
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族へのお便りを通して行事への参加を促したり立ち寄りやすい雰囲気を作っている	○	面会の回数を増やして頂く
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一緒に外出したり、気兼ねなく来てもらえるよう迎えている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う者同士の関係は良好であるが、合わない人もいる	○	テーブルの席を替えてたりしている
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に入所しても、訪問したりして関係を持っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で訴えを記録し、困難なときは本人と話し合う		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで情報や本人・家族との日々の会話の中で知り得た情報を記録する		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人のプランや集団活動の中で変化があれば話し合っている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議の用紙に記録している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎に話し合い変更している		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員に入所者様の訴えを周知するようにしている		全員の参加での話し合いができないので最終的な見直しは職員会議とする
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の他科受診や併設病院の活用と医師と看護師の対応がある		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議に参加を促し、協力を得ている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な時は声を掛けたり内容の説明をしている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	適応者に対しては経過をみている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と家族と話し合う	○	歯科の往診で3名の方が治療を受け診察にも行った
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	すこやかシルバーHPの受診を勧めた		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携の看護師が来て支援している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院前には情報を得て、グループホームで対応できるか判断し受け入れている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>認定調査時、家族、ケアマネが集まって今後の方針を話し合う 職員へも連絡している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>今年1名の方看取りを行った</p>	○	<p>今後、看取りに関する職員の研修もして行きたい</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>日々の生活での情報や介護のやり方など細かく伝える</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人に合わせた生活が維持できるよう気をはっている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>楽しみな行事などは前もって説明し、協力を得よう話をする</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れの中で全員が集まる時や1人で過ごす時間も作っている</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>トイレの問題もありカットのみは来てもらい、パーマや顔そりは出向いている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>役割分担もあるが、全員が一緒にできるようにしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みもあるがケーキ屋や餅屋へ行き選んで買ってくる</p>	○	<p>昼食後ホームで話しをしている時は菓子やホームを出したりしている</p>

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	季節を考えながら、布パンツにパットを敷いたりしている時間を見て連れて行く		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応は決まっているが、訴え時は入れる		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居宅は自由に出入りができ、横になれる		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全員で作った作品やおやつなど出来上がったときは達成感がある		本人が好きな事をしている時は輝いておりこのまま支援していきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたくて欲しいものを買うようにしている	○	3名ほどが対象
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員で散歩する時はできるが、一人だけや毎日訴えるとできない日もある	○	1F・2Fお互いに声かけし戸外に出たい人には対応している
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日曜日は人ごみがあり、平日は家族の参加が少ない		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が訴えたときは電話する 絵手紙を書いて出している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人友人には自由に出入りをして頂くよう声掛けしている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重度化によりベット柵を必要とする		家人に了解を得る
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りが出来る環境にしているが必要に応じて行う事もある越前市にSOSネットワークシステムがあり外に出歩く人は登録をする	○	時間帯により鍵をかける事がある
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホール内は台所、居間などが見渡せられ様子が確認できる	○	転倒、不穏などのリスクの高い人には特に注意している
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室の整理整頓をしている 歩行器の置き場所を決めて安全に気をつけている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを提出し話し合う プランに入れ統一している		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の連絡方法やマニュアルに沿って行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員にも日頃から伝えている 家族、近隣に連絡網がある スプリンクラーを設置した		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危険度が高い人には家族と話し合い介護用品を使う		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	発見者は日誌記録、申し送り時に話し合い協力HPに受診		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬、特殊な内容の説明はその都度説明 個人の薬のしおりで確認している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、食事の工夫、体操、歩行を毎日行っている		テレミンや下剤を使用することが多い
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアをしている 歯科受診は往診して治療を受ける		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補給食品を用意している		ミキサー食が2名おり補給食品を食べている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前の手洗い、ウエルパス使用 掃除にはハイターを使用		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の掃除は週間予定表に基づいて行っている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり、家庭的な雰囲気になっている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽が射したり、外の木々などが見えるところを好む 昼食後コーヒーなどを飲む		花を飾ったりソファの配置を考えて居場所をつくる
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり玄関にベンチを設置している		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していたタンスなどを持参し、好みの配置をしている		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇、窓などで調整している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが必要になっている 押し車や車椅子が増えた	○	トイレ2ヶ所に手すりをつけた あと2ヶ所も検討している
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分のやる気、能力を判断して自分の事は自分でするようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	収穫できる野菜、くだものを植えてある	○	花火、焼きもを楽しんだ
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の ○ 利用者の2/3くらいの ○ 利用者の1/3くらいの ○ ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある ○ 数日に1回程度ある ○ たまにある ○ ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・楽しみを共有できるように利用者の意見を聞いて行う(ドライブ・花見・ぼた餅作り・誕生会)
- ・近くによりあい(通所サービス)出きお互いに行事での行き来がある
- ・畑で(野菜・柿の木・いちご)など収穫できる